

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭55—42768

⑫ Int. Cl.³

E 04 B 5/54
1/60

識別記号

庁内整理番号

7540—2E
6434—2E

⑬ 公開 昭和55年(1980)3月19日

審査請求 未請求

(全 1 頁)

⑭ 天井材接続装置

門真市大字門真1048番地松下電
工株式会社内

⑮ 実 願 昭53—127185

⑯ 出 願 人 松下電工株式会社

⑰ 出 願 昭53(1978)9月15日

門真市大字門真1048番地

⑱ 考 案 者 松村輝男

⑲ 代 理 人 弁理士 石田長七

⑳ 実用新案登録請求の範囲

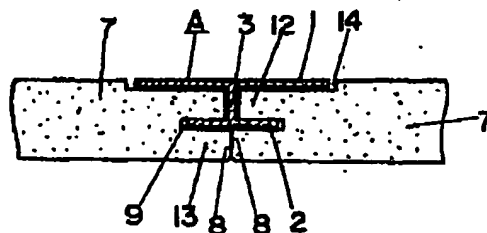
水平上片と水平下片との間に縦片を接続して縦断面略 I 字状の接続具本体を形成し、水平下片の両側縁部より斜内上方に突出せる湾曲片を突出し、水平上片の下面に略下向きの弾接突条を縦片の両側にて長手方向全長にわたって突設すると共に両湾曲片の先端に略上向きの弾接突条を長手方向全長にわたって突設し、相隣接せる天井材の対向側端面の凹溝内に水平下片と湾曲片とをそれぞれ挿入し、水平上片の弾接突条を天井材の上表面に天

井材の略全長にわたって弾接すると共に湾曲片の弾性突条を凹溝の上面に略全長にわたって弾接して成る天井材接続装置。

図面の簡単な説明

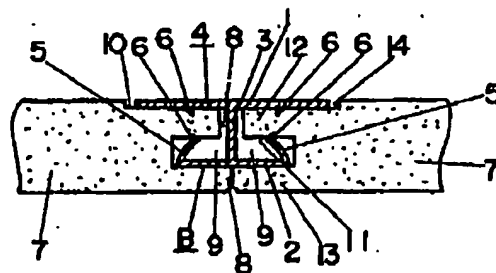
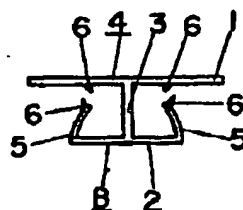
第 1 図は従来例の部分縦断面図、第 2 図は本考案の接続具の正面図、第 3 図は本発明の接続状態の部分縦断面図で、1 は水平上片、2 は水平下片、3 は縦片、4 は接続具本体、5 は湾曲片、6 は弾性突条、7 は天井材、8 は対向側端面、9 は凹溝、10 は上表面、11 は上面である。

第 1 図



第 3 図

第 2 図





(4,000円)

実用新案登録願 (11)

昭和53年 9月15日

特許庁長官 殿

1 考案の名称

天井材接続装置

2 考案者

住所

大阪府門真市大字門真1048番地
松下電工株式会社内

松村 輝 男

氏名

3 実用新案登録出願人

住所

名称

代表者

(583)

大阪府門真市大字門真1048番地
松下電工株式会社
神前 善一

4 代理人

住所

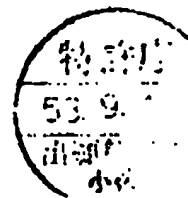
氏名

(6176)

大阪市北区梅田1丁目12番17号(梅田ビル5階)
弁理士 石田 長七
電話大阪(06) 345-7777 (代表)

5 添付書類の目録

- | | | |
|-----|-----|----|
| (1) | 明細書 | 1通 |
| (2) | 図面 | 1通 |
| (3) | 委任状 | 1通 |
| (4) | 願書 | 1通 |



1通
1通
1通
1通

53 42768

53 127185

明 細 書

1. 考案の名称

天井材接続装置

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 水平上片と水平下片との間に縦片を接続して縦断面略工字状の接続具本体を形成し、水平下片の両側端縁より斜内上方に突出せる湾曲片を突出し、水平上片の下面に略下向きの弾接突条を縦片の両側にて長手方向全長にわたって突設すると共に両湾曲片の先端に略上向きの弾接突条を長手方向全長にわたって突設し、相隣接せる天井材の対向側端面の凹溝内に水平下片と湾曲片とをそれぞれ挿入し、水平上片の弾接突条を天井材の上表面に天井材の略全長にわたって弾接すると共に湾曲片の弾接突条を凹溝の上面に略全長にわたって弾接して成る天井材接続装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は天井材接続装置の改良に関するもので、さらに詳述すると、水平上片(1)と水平下片(2)との

(1)

15. 42768

間に縦片(3)を接続して縦断面略工字状の接続具本体(4)を形成し、水平下片(2)の両側端縁より斜内上方に突出せる湾曲片(5)を突出し、水平上片(1)の下面に略下向きの弾接突条(6)を縦片(3)の両側にて長手方向全長にわたって突設すると共に両湾曲片(5)の先端に略上向きの弾接突条(6)を長手方向全長にわたって突設し、相隣接せる天井材(7)の対向側端面(8)の凹溝(9)内に水平下片(2)と湾曲片(5)とをそれぞれ挿入し、水平上片(1)の弾接突条(6)を天井材(7)の上表面(10)に天井材(7)の略全長にわたって弾接すると共に湾曲片(5)の弾接突条(6)を凹溝(9)の上面(11)に略全長にわたって弾接して成る天井材接続装置に係るものである。

従来例にあつては第1図に示すように、接続具(A)が単に略工字状のものにすぎなかつたため、相隣接せる天井材(7)の対向側端面(8)の凹溝(9)に接続具(A)の水平下片(2)を挿入した場合接続具(A)と天井材(7)との間に間隙が生じ、十分な気密性を保つことができないという欠点があつた。

本考案はかかる従来例の欠点に鑑みてなされた

(2)

もので、本考案の目的とするところは接続具に弾性突条を設け、弾性突条を天井材に弾接させることにより接続具と天井材との間の気密を十分に保つことができ、さらに天井材同志をがたなく接続できる天井材接続装置を提供するにある。

以下本考案を図示実施例に従つて詳述する。接続具(8)の縦断面は第2図に示すような形状で、その接続具本体(4)は幅広な水平上片(1)と幅狭な水平下片(2)との間を縦片(3)にて接続した縦断面略工字状のもので、さらに水平下片(2)の両側端縁より斜外上方に向けて湾曲せる湾曲片(5)を突出してあり、その先端は斜内上方を向いている。水平上片(1)の下面には縦片(3)の両側に水平上片(1)の全長にわたつて弾接突条(6)を一体的に突設してある。この弾接突条(6)は例えば軟質塩化ビニルで一体的に形成してあり、その先端は縦片(3)の下端部方向を向いている。また両湾曲片(5)の先端には湾曲片(5)全長にわたつて弾性突条(6)を突設してあり、その先端は斜外上方を向いており、この弾性突条(6)も例えば軟質塩化ビニルで一体的に形成してある。接続

(3)

具(9)はプラスチック(例えばポリ塩化ビニル)を
押出し成型により成形した長尺物で、弾性突条(6)
以外の部分は例えば硬質塩化ビニルで形成してあ
る。湾曲片(5)はそのためある程度の弾性を有して
いる。天井材(7)の対向側端面(8)はほぼ全長にわた
って凹溝(9)を凹設しており、凹溝(9)を形成する上
部突片(12)は下部突片(13)よりやや短くなっており、
さらに天井材(7)の上表面(10)の端部は段状に切落し
て凹段部(14)を形成してある。しかして天井材(7)の
対向側端部(8)同志を相対向させて配置し、凹溝(9)
内に接続具(9)の湾曲片(5)を握ませながら水平下片
(2)をそれぞれ挿入し、湾曲片(5)の弾性突条(6)を凹
溝(9)の上面(11)に凹溝(9)全長にわたって弾接させ
ると共に水平上片(1)の下面に設けた弾接突条(6)を凹
段部(14)の上表面(10)に天井材(7)全長にわたって弾接
させてある。この時縦片(3)は上部突片(12)間の間隙
に位置している。このように弾接突条(6)(6)をそれ
ぞれ弾接させてあるので、接合部分において十分
な気密を保つことができると共に凹溝(9)の幅のば
らつきを湾曲片(5)にて収納することができ、接続

(4)

具(4)にて天井材(7)同志をがたなく接合できるという利点がある。

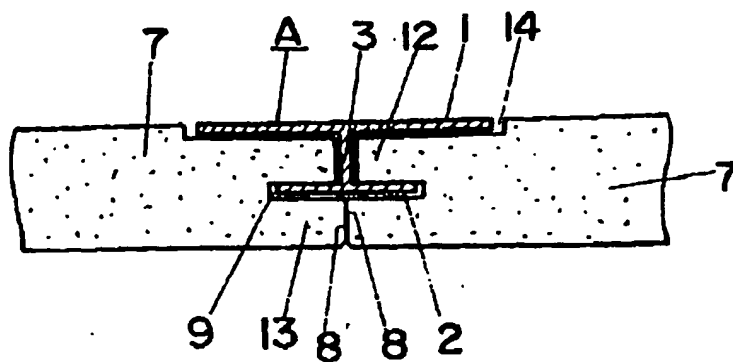
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来例の部分縦断面図、第2図は本考案の接続具の正面図、第3図は本発明の接続状態の部分縦断面図で、(1)は水平上片、(2)は水平下片、(3)は縦片、(4)は接続具本体、(5)は湾曲片、(6)は弾性突起、(7)は天井材、(8)は対向側端面、(9)は凹溝、(10)は上表面、(11)は上面である。

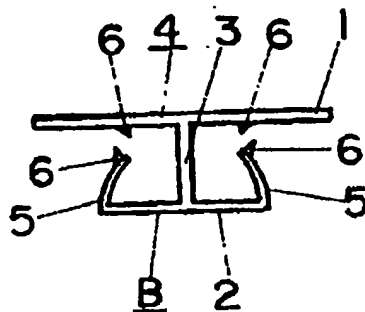
代理人 弁理士 石 田 長 七

(5)

第1図



第2図



第3図

